

学生受講結果アンケートまとめ

2016 年度

名古屋学芸大学・短期大学部

F D 推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では2007年度、名古屋学芸大学短期大学部では2000年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これはFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方(意識)を把握し、授業改善に役立てています。

2014年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更し、次の実施要項のとおり実施しています。

集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイトに公表させていただきます。

実施要項

学生による受講結果アンケート実施要項（2016年度）

名古屋学芸大学・短期大学部
FD推進委員会

1. 目的

当「学生による受講結果アンケート」は、本学の教育の質の向上を目指すFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として実施するものであり、学生の授業の受け止め方(意識)を把握し授業改善に役立てることを目的とするものである。

2. 調査の実施方法等

実施時期	前期の13～15回目の授業で実施する。
実施方法	授業担当教員が、学生にアンケート用紙を配布し、学生に無記名で回答させ、担当教員が回収する。
調査の対象科目	【1教員1科目(1コマ) *1】授業担当教員（専任・非常勤）が受け持つ授業科目のうち、1科目(1コマ)をアンケートの調査対象とする。なお、オムニバス方式の授業や提出期限に間に合わない集中講義は原則としてその対象としない。
アンケートの様式	授業形態（講義科目、演習科目、実験・実習科目）にかかわらず同一の様式を使用する。なお、必要に応じて教員独自の設問を設定することができる。
アンケート用紙の配布(設置)	アンケート用紙を教員メールコーナー等に設置する。担当教員は各自で必要な枚数分を受け取り、上記の通り調査を実施する。 *2

調査済みアンケート用紙の回収・提出	担当教員は、調査終了後速やかに回収したアンケート用紙を封入し、指定された期日までに指定された場所(教務課または学部事務室)に提出する。*3
-------------------	---

注記)

*1 ・1科目(1コマ)とは1科目に複数の授業がある場合、**1授業のみ実施**するという意味です。

・学芸大、短期大学部でそれぞれ授業をご担当の場合は、**学芸大科目から1科目、短期大学部科目から1科目(計2科目)**をご提出ください。

*2 ・2科目以上のアンケート実施をご希望の場合は、用紙準備の都合上、教務課までご連絡下さい。

*3 ・提出ラベルに、**アンケートを実施した授業情報項目を正確にご記入**ください。

3. 調査結果の集計等

アンケートの集計は、外部機関(業者)に委託し次の通り行う。

① 各教員の授業ごとの集計

② 授業形態ごとに、大学全体、学部、学科、教養、教職(学芸員課程含む)および短期大学部全体の単位での集計

※自由記述欄の回答は集計の対象外とする。

4. 調査結果のフィードバックと「授業運営の振り返り」の提出

集計結果は、授業ごとのものは各授業担当者に配付する。授業担当者は結果を活用し「授業運営の振り返り」にて授業改善計画を提出し、学内ポータルサイトへ公開する。全体の集計結果(②のデータ)は、FD推進委員会作業部会が預かり、調査結果の掌握及び分析に当たり、大学としての組織的な授業改善を目指す。

5. 調査結果の取り扱い

全体集計結果(②のデータ)は、FD推進委員会の管理下に置き、教務課で保管する。あわせて学科長の教員管理指導を強化し、学科内授業担当者の集計結果データを保管・閲覧することで、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用する。また集計結果については、大学全体、学部、学科、教養、教職(学芸員課程含む)および短期大学部ごとに各項目の平均値をHP等で公表する。

以上

アンケート設問

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思う数にマークしてください。

1. 学習目的の理解と達成状況について

(5大変そう思う ← → 0全くそう思わない)

①私は、この授業の学習目的についてよく理解・納得している。 5-----4-----3-----2-----1-----0

②私は、この授業の内容がよく理解できた／演習によく取り組むことができた。

- ・ 特によく理解（取り組み）できた部分 ()
- ・ 特に理解（取り組み）できなかった部分 ()

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った。

④（今の考えとして）私はこの授業の学習目的は達成できたと感じている。

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている。

2. 授業の運営について

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う。

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は、自分にとって適切なものであったと思う。

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う。

⑨授業の開始と終了の時間は適切であったと思う。

3. 担当教員独自設問

⑩ 5-----4-----3-----2-----1-----0

⑪ 5-----4-----3-----2-----1-----0

⑫ 5-----4-----3-----2-----1-----0

4. 自由記述

最後にこの授業について自由に記述してください。

- ・ この授業で特に良いと思った部分。 ()
- ・ この授業で改善した方がよいと思った部分。 ()
- ・ その他気づいた部分。 ()

振り返り活動の結果分析

1. 実施状況について

今年度も2014年度から採用している学生受講結果アンケートを使い、各教員が講義終了後の学生自身の学びに対する意識を調査した。実施方法は次の通りであった。

- ・教員が自分の全担当科目の中から一クラスを選択。
- ・授業13回目以降の授業内で、教員がアンケートを実施。
- ・教員が自ら回収して教務に提出。

このアンケートに対する過去3年間の教員参加率（各年度10月時点）を以下に示す。

<表1 過去3年間における受講結果アンケート参加率>

	2016年度		2015年度		2014年度	
	提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
学芸	232	95%	231	96%	216	94%
短大	17	89%	34	97%	35	97%
全体	249	94%	265	96%	251	95%

過去3年間の参加率は95%前後と大きな変化はない。

教員は、このアンケート結果に対して、どうしてこのような値になったのかを各自で分析し、授業運営の振り返りとしてまとめたものを学内ページで公開している。この振り返りの作成状況（各年度11月時点）は以下の通りである。

<表2 過去3年における授業運営の振り返り記述者割合>

	2016年度		2015年度		2014年度	
	提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
学芸	191	83%	210	91%	83	79%
短大	17	100%	31	91%	12	67%
全体	208	84%	241	91%	95	77%

昨年度は一昨年度に比較して大幅な増加であったが、今回は昨年度に比較して7%ほど低下している。この要因について3. 結果分析で述べる。

2. アンケート結果

今年度も、

- ・学習目的をよく理解している、の設問で5（大変そう思う）か4（そう思う）に印を付けた学生でかつ

- ・学習目的を達成した実感がある、の設問で5か4を付けた学生でかつ
 - ・今後学修を深めたいと考えている、の設問で5か4を付けた学生
- の、全体における存在割合を示す「肯定評価率」を用いて、効果的授業の度合いを示す指標とした。昨年度と今年度の肯定評価率の変化を表3に示す。なお、()内は各設問で5を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。

<表3 15-16年度における肯定評価率の変化>

	学芸		短大	
	16年度	15年度	16年度	15年度
講義	35.4% (7.7%)	37.1% (8.0%)	34.9% (6.3%)	30.9% (8.8%)
演習	58.5% (16.4%)	55.1% (13.8%)	55.7% (11.3%)	46.3% (18.3%)
実習	53.2% (15.2%)	54.9% (14.5%)	56.8% (25.7%)	69.5% (20.6%)

学芸大学は、演習系科目が増加(+3.4%)であり、そのうち強く成功を実感する学生も2.6%とアップしている。講義各科目、実習系科目は若干減少している(ともに-1.7%)が、その値の小ささからみて、おおむね変化なしととらえてもよいであろう。短大については学生数が半分となっているため単純な比較はできないが全体としては、向上していると言ってよい。

3. 結果分析

アンケートへの参加率が95%前後で大きな変化は見られない。ということは、毎年参加しない教員の割合が必ず5%程度存在することを意味している。この壁をどうするのがFD活動としての課題になる。しかし、提出者数そのものは過去3年間で216人から231人、245人と順調に伸びているため、このアンケートの有用性が少しずつ浸透しているとも言える。

一方、振り返りの記述者が今年度は20人近く減少している。各所属別で専任、非常勤講師の内訳ごとの提出率を2015年度と比較したものが表4である。

<表4 振り返り所属・専任・非常勤別提出率>

学科・所属	2016年度提出率		2015年度提出率	
	全体	(専任, 非常勤)	全体	(専任, 非常勤)
管理栄養	96%	(95%, 100%)	100%	(100%, 100%)
映像	74%	(80%, 67%)	94%	(92%, 94%)
デザイン	83%	(92%, 78%)	88%	(80%, 94%)

ファッション	93%	(100%, 89%)	91%	(100%, 86%)
子ども	85%	(81%, 90%)	98%	(96%, 100%)
教養	68%	(100%, 62%)	74%	(100%, 70%)
教職	100%	(100%, 100%)	93%	(100%, 80%)
全体	84%	(90%, 80%)	91%	(95%, 88%)

ファッション造形学科や教職課程など提出率を増加させている部署も存在するが、全体的に減少していることが分かる。

これには、幾つかの理由が考えられる。一つは記述方法の厳格化である。例年、振り返りの記述内容が、教員によってばらついていた。FD推進委員会が適切な振り返りができるような書き方のガイドラインを提示し、より確実な分析と改善方策の記述を求めた。これが教員の負担となり執筆しない教員が増えた可能性がある。二つ目はやはり教員の慣れの問題もある。昨年は、新しい仕組みもありFDの広報活動も効果的であった。今年は例年通りの活動であったが、例年通りでは慣れの問題を解決できない。教員をFD活動に向かわせる新たな仕組みが必要になる。

一方、振り返りの記述を厳格化したことが、より適切なFD活動につながられた側面もある。そのような代表的教員Aのコメントを要約して以下に示す。

「・・・。今回のアンケート結果は、昨年度と比べて全体的に改善されたが、授業内容や説明方法は昨年度と比べてまったく同じであった。ただ、ブレイクタイムを設けたり、課題のフィードバックを積極的に行ったりして学生との対話を頻繁に取り続けることを心がけた。このように学生とのコミュニケーション活発化が改善の最大要因であろう。・・・」

今回の振り返りを見ると、このように「昨年度と比較して肯定評価率が向上（減少）した。これは～を実施した（しなかった）ことが原因だろう」など、自らが行った授業改善アクションと学生の肯定評価率の変化をつなげたコメントが増えているように見受けられる。このような教員はPDCAサイクルを体現した者であり、顕彰やヒアリングなどで積極的にスポットを当てるべき教員であり、ある意味FD活動の目標とすべき教員でもある。自分が行った工夫がダイレクトに肯定評価率へ反映するようならば、改善への面白さが湧き、興味も継続することが期待できる。問題は、授業改善に積極的に対応がとれない教員である。肯定評価率が高いならばまだしも、低いまま改善が試みることができない教員に対する対策は優先しなければならない。

4. 次年度以降の改善策

振り返りの中で「今年度初めてアンケートを実施したため過去との比較ができない」と言うコメントが多数あった。本学は一教員が複数科目についてアンケートを実施することを禁

止してはいないが、原則、1. で示した一教員一クラスで行っている。このため複数科目の変化を経年で追うことが難しい。また、一部FD委員からも「教員が回収しては学生も本音を書きにくいのではないか」「もっと多くの科目で実施した方がよいのでは」という意見があった。そこで、全科目（または全クラス）Webによる入力を推進する。

次に、各作業フェーズの質を高めることである。いままでFD推進委員会としてPDCAサイクルに基づき、各作業フェーズへの改革を実施してきている。が、アンケート参加率や振り返り提出率などは頭打ち（もしくは減少）傾向にある。参加方法や内容を見直し、より多くの教員が適切な方法で実施できるよう、資料の再検討、広報活動を繰り返し展開していく。特に、個々の教員の振り返りを全体で見直す作業は早急に必要である。先述したように、低いまま改善を試みることができない教員のコメントの中には、落胆や怒りを示すものが少数ではあるが存在する。がんばって自分が施した改善が学生の結果に一致していないためであり、教員が熱心であればあるほどこういった気持ちの落差が大きくなり感情的なコメントになりがちである。この様なマイナス感情が継続した先にあるのは無気力・無関心（こんなことはやっても意味がない、アンケートでは何もはかれないなど）でしかない。

対策の一歩として、個々の教員のFD活動（上手くできている、いない）の実態を調査し、その上で、肯定評価率が低いまま改善ができていない教員や、逆に授業改善に上手く取り組んでいる教員の存在や数値割合を具体化することが必要である。次にそれらデータを基に上手くできない教員のケア（個別対応や情報共有など）や上手く出来ている教員の情報を共有する作業などを行っていく。

以上

集計結果

- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）
- ・名古屋学芸大学短期大学部 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学短期大学部 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学短期大学部 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）

2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	講義
------	----

回答者数	6,561
------	-------

No	設問文	回答数と回答率(%)												平均点			※5と4と回答した比率						
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	987	15.1%	2,684	41.2%	2,368	36.3%	378	5.8%	87	1.3%	16	0.2%	6,520	41	3.62	-	-	-	56.3%	-	-	-
	2 授業内容の理解	1,155	17.8%	2,739	42.1%	2,066	31.8%	423	6.5%	84	1.3%	32	0.5%	6,499	62	3.67	-	-	-	59.9%	-	-	-
	3 授業時間外学習	687	10.6%	1,580	24.3%	2,529	38.8%	1,108	17.0%	365	5.6%	242	3.7%	6,511	50	3.06	-	-	-	34.8%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	764	11.7%	2,218	34.1%	2,681	41.2%	653	10.0%	145	2.2%	49	0.8%	6,510	51	3.41	-	-	-	45.8%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	1,652	25.5%	2,344	36.2%	1,842	28.5%	466	7.2%	124	1.9%	42	0.6%	6,470	91	3.74	-	-	-	61.8%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	1,678	25.8%	2,361	36.3%	1,840	28.3%	428	6.6%	134	2.1%	70	1.1%	6,511	50	3.74	-	-	-	62.0%	-	-	-
	7 教材の適切性	1,800	27.7%	2,473	38.0%	1,724	26.5%	337	5.2%	115	1.8%	59	0.9%	6,508	53	3.82	-	-	-	65.7%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	1,666	25.7%	2,501	38.5%	1,879	28.9%	307	4.7%	105	1.6%	33	0.5%	6,491	70	3.80	-	-	-	64.2%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	2,907	44.8%	2,133	32.9%	1,183	18.2%	183	2.8%	56	0.9%	25	0.4%	6,487	74	4.17	-	-	-	77.7%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

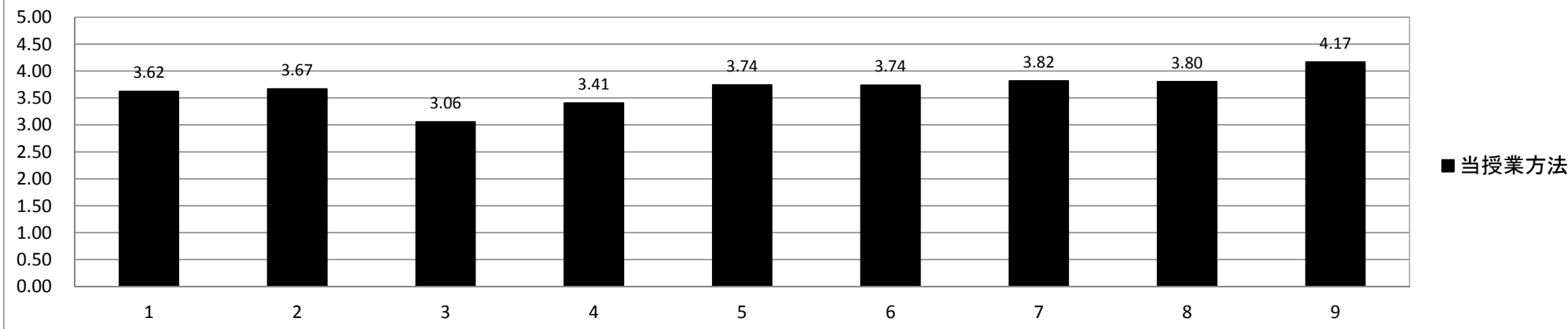
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		35.4%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		7.7%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	演習
------	----

回答者数	2,715
------	-------

※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)												平均点			肯定回答率						
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	776	29.2%	1,211	45.5%	599	22.5%	53	2.0%	15	0.6%	6	0.2%	2,660	55	4.00	-	-	-	74.7%	-	-	-
	2 授業内容の理解	1,055	39.8%	1,123	42.3%	420	15.8%	37	1.4%	14	0.5%	5	0.2%	2,654	61	4.19	-	-	-	82.1%	-	-	-
	3 授業時間外学習	792	29.8%	962	36.2%	630	23.7%	189	7.1%	62	2.3%	23	0.9%	2,658	57	3.81	-	-	-	66.0%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	679	25.6%	1,188	44.7%	667	25.1%	90	3.4%	26	1.0%	7	0.3%	2,657	58	3.90	-	-	-	70.3%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	1,346	50.9%	863	32.6%	372	14.1%	48	1.8%	9	0.3%	8	0.3%	2,646	69	4.31	-	-	-	83.5%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	1,334	50.2%	916	34.4%	331	12.4%	58	2.2%	16	0.6%	4	0.2%	2,659	56	4.31	-	-	-	84.6%	-	-	-
	7 教材の適切性	1,274	47.9%	951	35.8%	377	14.2%	41	1.5%	11	0.4%	4	0.2%	2,658	57	4.29	-	-	-	83.7%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	1,214	45.8%	977	36.8%	402	15.2%	46	1.7%	10	0.4%	4	0.2%	2,653	62	4.25	-	-	-	82.6%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	1,505	56.7%	782	29.5%	306	11.5%	45	1.7%	9	0.3%	6	0.2%	2,653	62	4.40	-	-	-	86.2%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

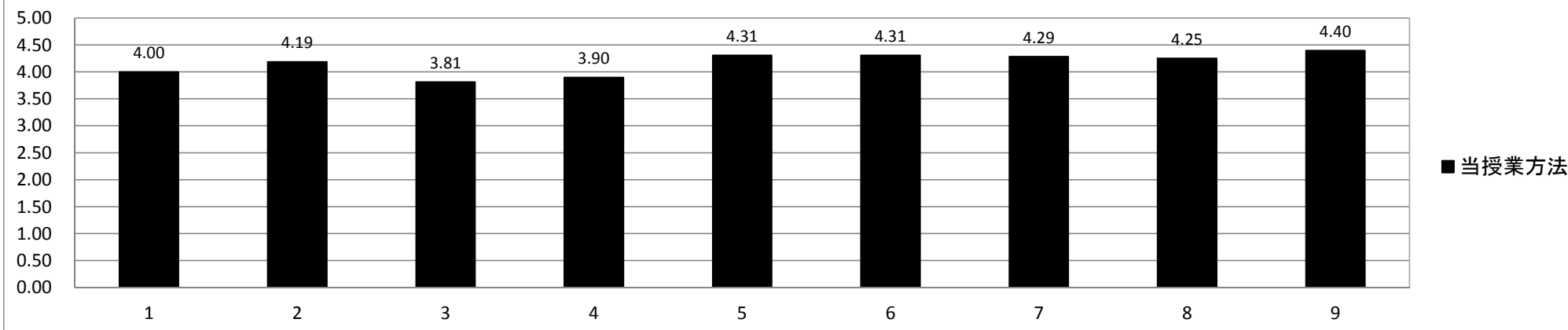
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		58.5%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		16.4%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	実験・実習
------	-------

回答者数	698
------	-----

※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)											平均点			肯定回答率							
		5大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	170	25.4%	299	44.7%	174	26.0%	21	3.1%	4	0.6%	1	0.1%	669	29	3.91	-	-	-	70.1%	-	-	-
	2 授業内容の理解	248	37.2%	285	42.7%	110	16.5%	19	2.8%	2	0.3%	3	0.4%	667	31	4.12	-	-	-	79.9%	-	-	-
	3 授業時間外学習	175	26.2%	213	31.9%	172	25.8%	63	9.4%	20	3.0%	24	3.6%	667	31	3.58	-	-	-	58.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	173	26.0%	286	42.9%	173	26.0%	20	3.0%	11	1.7%	3	0.5%	666	32	3.87	-	-	-	68.9%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	262	39.4%	243	36.5%	137	20.6%	18	2.7%	2	0.3%	3	0.5%	665	33	4.11	-	-	-	75.9%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	318	47.6%	225	33.7%	99	14.8%	18	2.7%	6	0.9%	2	0.3%	668	30	4.24	-	-	-	81.3%	-	-	-
	7 教材の適切性	268	40.2%	252	37.8%	125	18.7%	17	2.5%	3	0.4%	2	0.3%	667	31	4.14	-	-	-	78.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	254	38.1%	264	39.6%	125	18.8%	19	2.9%	3	0.5%	1	0.2%	666	32	4.12	-	-	-	77.8%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	322	48.3%	204	30.6%	104	15.6%	22	3.3%	10	1.5%	5	0.7%	667	31	4.19	-	-	-	78.9%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

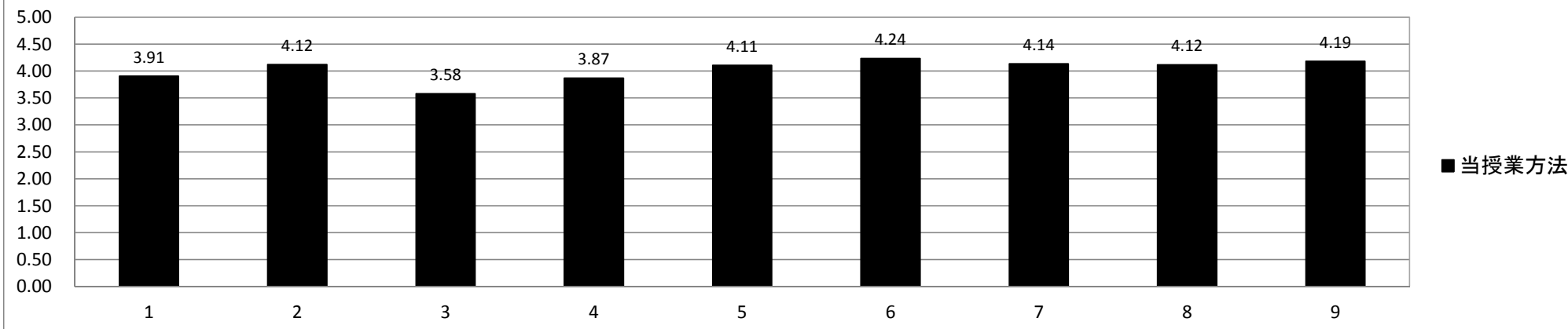
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		53.2%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		15.2%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学 短期大学部

授業方法	講義
------	----

回答者数	238
------	-----

No	設問文	回答数と回答率(%)											有効回答		平均点			肯定回答率					
		5大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体		
1	1 学習目的の理解	44	18.8%	96	41.0%	78	33.3%	9	3.8%	4	1.7%	3	1.3%	234	4	3.68	-	-	-	59.8%	-	-	-
	2 授業内容の理解	54	23.2%	97	41.6%	58	24.9%	14	6.0%	10	4.3%	0	0.0%	233	5	3.73	-	-	-	64.8%	-	-	-
	3 授業時間外学習	30	12.8%	55	23.4%	87	37.0%	29	12.3%	24	10.2%	10	4.3%	235	3	3.03	-	-	-	36.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	31	13.2%	84	35.7%	83	35.3%	22	9.4%	11	4.7%	4	1.7%	235	3	3.38	-	-	-	48.9%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	57	24.6%	89	38.4%	59	25.4%	13	5.6%	11	4.7%	3	1.3%	232	6	3.69	-	-	-	62.9%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	68	28.9%	86	36.6%	60	25.5%	15	6.4%	6	2.6%	0	0.0%	235	3	3.83	-	-	-	65.5%	-	-	-
	7 教材の適切性	72	30.6%	87	37.0%	56	23.8%	14	6.0%	6	2.6%	0	0.0%	235	3	3.87	-	-	-	67.7%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	76	32.6%	75	32.2%	58	24.9%	16	6.9%	7	3.0%	1	0.4%	233	5	3.83	-	-	-	64.8%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	141	60.0%	66	28.1%	25	10.6%	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	235	3	4.47	-	-	-	88.1%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

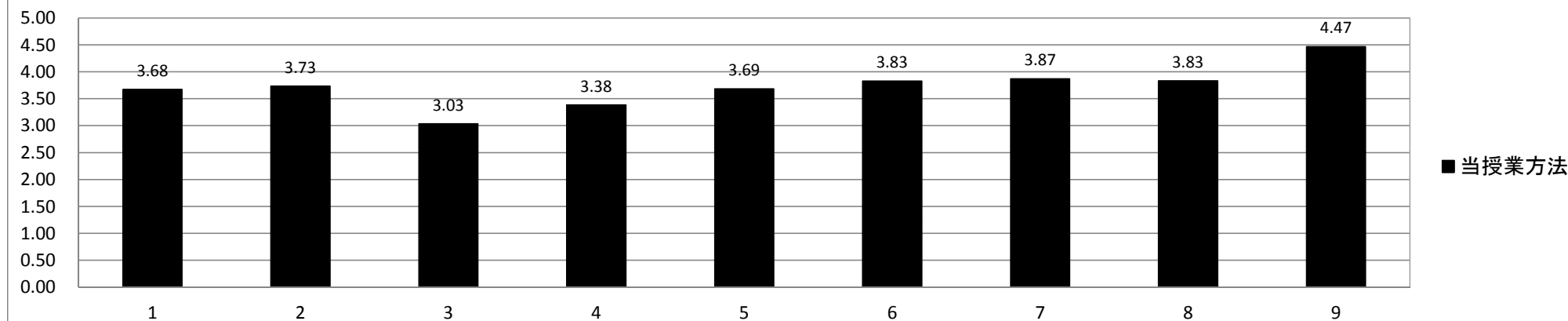
学生肯定評価率	率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合	34.9%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	6.3%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学 短期大学部

授業方法	演習
------	----

回答者数	97
------	----

No	設問文	回答数と回答率(%)												有効回答		平均点				肯定回答率			
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体		
1	1 学習目的の理解	22	22.7%	49	50.5%	22	22.7%	3	3.1%	0	0.0%	1	1.0%	97	0	3.90	-	-	-	73.2%	-	-	-
	2 授業内容の理解	34	35.1%	38	39.2%	21	21.6%	3	3.1%	1	1.0%	0	0.0%	97	0	4.04	-	-	-	74.2%	-	-	-
	3 授業時間外学習	11	11.3%	27	27.8%	34	35.1%	11	11.3%	8	8.2%	6	6.2%	97	0	3.04	-	-	-	39.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	19	19.6%	43	44.3%	25	25.8%	6	6.2%	3	3.1%	1	1.0%	97	0	3.68	-	-	-	63.9%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	34	35.1%	36	37.1%	20	20.6%	4	4.1%	2	2.1%	1	1.0%	97	0	3.96	-	-	-	72.2%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	38	39.2%	33	34.0%	20	20.6%	5	5.2%	0	0.0%	1	1.0%	97	0	4.04	-	-	-	73.2%	-	-	-
	7 教材の適切性	37	38.1%	27	27.8%	28	28.9%	5	5.2%	0	0.0%	0	0.0%	97	0	3.99	-	-	-	66.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	36	37.1%	32	33.0%	26	26.8%	3	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	97	0	4.04	-	-	-	70.1%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	41	42.3%	32	33.0%	20	20.6%	3	3.1%	1	1.0%	0	0.0%	97	0	4.12	-	-	-	75.3%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※5と4と回答した比率

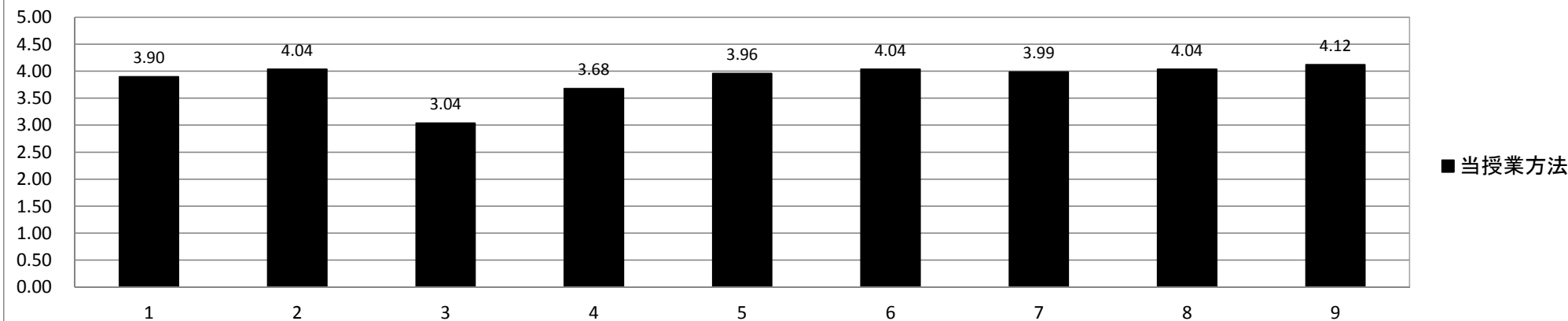
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		55.7%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		11.3%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2016年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学 短期大学部

授業方法	実験・実習
------	-------

回答者数	74
------	----

No	設問文	回答数と回答率(%)												有効回答	無効回答	平均点				肯定回答率			
		5.大変そう思う		4		3		2		1		0.全くそう思わない				授業方法	学部	学科	全体	授業方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	31	41.9%	23	31.1%	19	25.7%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	74	0	4.14	-	-	-	73.0%	-	-	-
	2 授業内容の理解	33	44.6%	26	35.1%	13	17.6%	1	1.4%	1	1.4%	0	0.0%	74	0	4.20	-	-	-	79.7%	-	-	-
	3 授業時間外学習	22	29.7%	25	33.8%	21	28.4%	2	2.7%	4	5.4%	0	0.0%	74	0	3.80	-	-	-	63.5%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	25	33.8%	24	32.4%	20	27.0%	3	4.1%	2	2.7%	0	0.0%	74	0	3.91	-	-	-	66.2%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	32	43.2%	24	32.4%	14	18.9%	2	2.7%	2	2.7%	0	0.0%	74	0	4.11	-	-	-	75.7%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	36	48.6%	25	33.8%	10	13.5%	1	1.4%	2	2.7%	0	0.0%	74	0	4.24	-	-	-	82.4%	-	-	-
	7 教材の適切性	36	48.6%	22	29.7%	15	20.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	74	0	4.24	-	-	-	78.4%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	36	48.6%	21	28.4%	15	20.3%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	74	0	4.23	-	-	-	77.0%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	38	52.1%	20	27.4%	15	20.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	73	1	4.32	-	-	-	79.5%	-	-	-
3	10 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		56.8%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		25.7%	-	-	-

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点

